

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K12954

研究課題名(和文) 軍事的圧力に抗う文化的実践 沖縄とパレスチナにおける地誌編纂と景観修復

研究課題名(英文) Cultural practices against militarization: the compilation of regional geographies and the restoration of landscapes in Okinawa and Palestine

研究代表者

山崎 孝史(YAMAZAKI, Takashi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10230400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域誌史の編纂や文化景観の修復が「地域」を制度化し、地域アイデンティティを構築する政治的役割を担うという前提から、沖縄県とパレスチナを研究対象に、「他者」からの軍事的圧力に抗う文化的実践として地誌編纂と景観修復の意義を明らかにし、排他的な対抗ナショナリズムの喚起ではない、多様な主体による地域と民族集団の再生への可能な方策を探った。その結果、沖縄においては県内自治体さらには字のレベルにおける誌史編纂と基地跡地利用にみられる景観修復、パレスチナにおいては難民の記憶をもとにオーラルヒストリーによる地誌編纂と占領下の集落建設におけるカウンタープランニングにそうした可能性を見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：The compilation of regional geographies and the restoration of cultural landscapes play a political role of institutionalizing 'regions' and reconstructing regional identities. Based on these premises, this study attempts to elucidate the significance of the compilation and restoration as cultural practices against militaristic oppression from "the occupiers" by investigating the cases of Okinawa and Palestine. It also seeks possible measures for the rehabilitation of regions and ethno-national groups by various actors without evoking exclusive counter-nationalisms. The study demonstrates that there are recognizable possibilities for the rehabilitation. While activities for the compilation of micro-regional histories and landscape restoration in military base towns exemplify such cultural practices in Okinawa, the restoration activities for oral histories in and the counter-planning of village construction for destroyed Palestinian villages illustrate the Palestinian counterpart.

研究分野：政治地理学

キーワード：占領 空間 沖縄 パレスチナ 政治地理学

1. 研究開始当初の背景

「地域」と呼ばれる単位は、政策・教育・メディアを通して、地域に関わる主体の意識と行動を方向付け、地域アイデンティティを構築する母体となる。この過程を地域の「制度化」と呼ぶ。地誌や地域史(地域誌史)の編纂や文化景観の修復は、地域を制度化する一つのプロセスである。この地域の制度化は、郷土教育という形で地域を差異化させる思想を強化することもある。つまり、地域は、その地域がおかれる地政学的文脈、国家との関係、そして地域内の社会動態によって、そこに形成される集合的な記憶や政治意識に地域性を与える。それは「場所の政治」として発現する。とりわけ国家の辺境地域では、その地政学的文脈が複雑・不安定であるほど、地域の制度化は支配と被支配をめぐる場所の政治と切り離せなくなる。

一方、地域誌史の編纂や文化景観の修復は、周辺化された地域の活性化とも深くかかわる。それは地域資源の単なる観光化に留まらず、地域社会総体を再生するプロジェクトとして、多様な主体による生活の記録・記憶の復元を目指して実践される必要がある。こうした文化的支柱を欠く政治的抵抗だけで、支配/被支配の構造を変化させることは困難となる。

本研究のメンバーは、沖縄県内各地の戦後政治史と集落景観史を研究していく中で、地域誌史編纂という事業自体が、沖縄県を固有の地域として日本本土と差異化し、地域アイデンティティを強化する実践であることを理解するようになった。また、破壊されたパレスチナ人村落の歴史記述やパレスチナ人の伝統的建造物を再生利用する事業が、ユダヤ化に抗するパレスチナ人の民族アイデンティティを維持する戦術であることを読み取ってきた。こうした研究実績のもとに、本研究は構想された。

2. 研究の目的

本研究は、地域誌史の編纂や文化景観の修復が「地域」を制度化し、地域アイデンティティを構築する政治的役割を担うという前提から、沖縄県とパレスチナという一見比較しがたい地域を研究対象に、「他者」からの軍事的圧力に抗う文化的実践として地誌編纂と景観修復の意義を明らかにし、排他的な対抗ナショナリズムの喚起ではない、多様な主体による地域と民族集団の再生への方策を探る。

3. 研究の方法

本研究は沖縄班(山崎、崎浜)とパレスチナ班(金城、飛奈)から構成され、沖縄県における米軍駐留とパレスチナにおけるイスラエルの侵攻という地政学的・軍事的緊張の構造を理解するとともに、それに抗う民族集団の文化的実践に関する実態調査を実施する。研究期間は2年間とし、沖縄県およびパレスチナにおいて、

各地域での関係機関との連携のもとに、研究的に沿った共同調査を数次実施するとともに、比較研究の成果を総括し、関係機関に還元していく。

具体的には、研究代表者と研究分担者はそれぞれ沖縄県とパレスチナ各地域での地域誌史編纂や文化景観修復の実践に含意される地域・民族アイデンティティ構築の意図とメカニズムを把握する。さらにそうした編纂・修復の対象・主体として、どのように多様なジェンダーやエスニシティが組み込まれるか、それがどのように地域と民族集団の文化的活性化に積極的影響を及ぼしうるかを、それぞれの地域で明らかにする。

4. 研究成果

平成27年度は、各班が相互に意見・情報を交換しつつ、それぞれのフィールドで「軍事的圧力に抗う文化的実践」の実態を明らかにすることを主眼とし、研究に着手した。その内容は以下のとおりである。

沖縄班は、沖縄市総務部総務課市史編集担当および沖縄国際大学南島文化研究所において、自治体史・字誌の編纂ならびに宜野湾市における普天間基地跡地利用計画の内容に関する調査を実施し、28年2月5日に同研究所に行政関係者を招き「沖縄文化のレジリエンス(復元力)地域史と景観復原の視点から」と題したミニシンポジウム(沖縄国際大学南島文化研究所第195回シマ研究会)を開催した。

このシンポジウムにおいては、基地跡地利用に向けての綿密な文化財調査と破壊された集落に居住した旧住民・地主の跡地利用計画画の重要性が確認され、そうした文化景観修復を計画通りに実現させるためにも普天間基地の早期返還が緊要であることが理解された。

パレスチナ班は担当者それぞれがヨルダン川西岸地区において地誌編纂と伝統的建造物修復事業の内容に関する調査を行なった。またハイファ大学地理学部のラーセム・ハマイス教授の協力の下、2016年8月に開かれる国際地理学連合北京会議において、本研究と直接かかわるセッション(A Reexamination of Militarization and "the Space of Occupation": A Comparison Perspective)を設置する準備を進めた。

平成28年度は、前年度の研究を展開させるために、両研究班の連携として2016年8月に開催された国際地理学連合北京会議において上記セッションを設け、占領空間の実態を国際的に比較考察した。ここで山崎は上記普天間基地の跡地利用の意義を報告し、ハマイス教授はヨルダン川西岸地区のパレスチナ人集落の再建計画について報告した。

とりわけハマイス教授による報告は文化的抵抗の一つの可能性を提示した。すなわち、イスラエルの非合法的な入植地建設によって生活空間を圧迫されるパレスチナ人にとって、この集落再建計画はイスラエルの都市計画に対抗す

る(カウンター)プランニングと意味づけられるのである。これも景観の修復が占領に対する一つの文化的抵抗を構成している例である。

12月には、大阪市立大学船場プラザにおいて写真展兼シンポジウム「コザ暴動プロジェクト in 大阪「都市と暴動」」を開催した。これは1970年に沖縄県旧コザ市で勃発した「コザ暴動」を題材とする写真展、「都市と暴動」をテーマとする講演、写真家によるギャラリートークから構成された。この企画は、地域の政治史的記憶が、写真展と写真家の語りを通して、地域アイデンティティを再構築する働きをもつ文化的実践と位置付けられる。本研究の沖縄班がこの企画に関わることで、本研究そのものが米軍基地による沖縄占拠を問題化する文化的実践の一翼を担ったのである。

一方、パレスチナ班は若手パレスチナ研究者の研究促進をめざし「関西パレスチナ研究会」の立ち上げに尽力した。

これらの事業成果は各シンポジウムの詳細な記録と研究分担者および国際地理学連合北京会議に招請したハマイス教授の寄稿からなる研究報告書として刊行準備中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

山崎孝史「政治地理をどう教えるか 選挙結果を活用して」歴史と地理 703、2017、1-9頁

山崎孝史「選挙からみる複数の「沖縄」 民意はどこで示されたのか?」SYNODOS シノドス、2016、

<http://synodos.jp/politics/18689>

山崎孝史「境界、領域、「領土の罨」 概念の理解のために」地理 61-6、2016、88-96頁

金城美幸「イスラエル建国以前の労働シオニズムにおける「民族共生論」の役割」アジア・アフリカ研究 55、2015、27-47頁

[学会発表](計20件)

Yamazaki, Takashi. Multi-scalar contextual effects on local elections: Okinawa in Northeast Asia. Debunking the Myth on Northeast Asia & Borders, February 5, 2017, Kyushu University Nishijin Plaza (Hukuoka, Japan)

山崎孝史「基地の街コザと暴動を語る論理」コザ暴動プロジェクト in 大阪「都市と暴動」シンポジウム(人文地理学会政治地理研究部会第20回研究会) 2016年12月18日、大阪市立大学都市研究プラザ船場アートカフェ(大阪府・大阪市)

山崎孝史「リスケーリングの政治としての

「大阪都構想」新自由主義的都市改革と地方自治の「危機」人文地理学会大会、2016年11月13日、京都大学吉田南キャンパス(京都市・京都市)

Yamazaki, Takashi. Why political geography matters in Okinawa studies? The Department of Geography graduate workshop, September 30, 2016, University of Hawaii at Manoa (Honolulu, USA)

Yamazaki, Takashi. Shifting borders and shifting identities: the geopolitics of identity in postwar Okinawa. The Department of Geography lecture series, September 29, 2016, University of Hawaii at Manoa (Honolulu, USA)

Mamadouh, Virginie and Yamazaki, Takashi. From inter-state to multiscalar Political Geographies. Plenary lecture at the 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 25, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)

Yamazaki, Takashi. How our city should be dissolved: Osaka Metropolis Plan as the politics of rescaling. The 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 24, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)

Yamazaki, Takashi. Cultural practices against militarization: the “resilience” of Okinawan culture. The 33rd International Geographical Congress in Beijing, August 22, 2016, China National Convention Center (Beijing, China)

Yamazaki, Takashi. From inter-state to multi-scalar political geographies: an East Asian perspective. IGU Commission on Political Geography Pre-conference: International Forum on Frontiers of Political Geography, August 19, 2016, Sun Yat-Sen University (Guangzhou, China)

崎浜靖「琉球列島における1944年作製陸海編合図の特性」沖縄地理学会、2016年07月30日、沖縄国際大学(沖縄県・宜野湾市)

Yamazaki, Takashi. Between a sea power and land powers: the revival of environmental determinism in Japan's security policy. The Joint Conference of IGU Commissions on “Geomorphology & Society”, “Island Study” and “Political Geography” Earth, Society, Islands, and the Political in the Changing World, June 26, 2016, National Taiwan University (Taipei, Taiwan)

Yamazaki, Takashi. Japan's geopolitical vision and security policy towards the Pacific Ocean. The 2016 Association of American Geographers Annual Meeting, March 29, 2016, Hilton Union Squire (San Francisco, USA)

山崎孝史「二つの「コザ騒動」 米軍統治下沖繩における住民蜂起の展開と意味」大阪市立大学人権問題研究センター第 118 回サロン de 人権、2015 年 11 月 18 日、大阪市立大学(大阪府・大阪市)

山崎孝史「辺境アイデンティティの再制度化 沖繩県八重山諸島における教科書論争」人文地理学会大会、2015 年 11 月 15 日、大阪大学(大阪府・豊中市)

Yamazaki, Takashi. The spatial control of "vices" in the U.S. military outpost: value contradictions in a long-term stationing on foreign soil. IGU Moscow Regional Conference 2015, October 18, 2015, Lomonosov Moscow State University (Moscow, Russia)

金城美幸「歴史が書きかえられるとき 二国国家解決の幻想とイスラエル左派の瓦解」日本平和学会 2015 年度秋季大会、2015 年 07 月 18 日、アステールプラザ(広島県・広島市)

山崎孝史「日本の辺境における帰属意識の政治」中山大学地理科学・計画学院政治地理学系列第二講、2015 年 05 月 29 日、中山大学(中国・広州市)

山崎孝史「戦後沖繩の境界・領域と政治行動」華南師範大学地理科学学院招待講演、2015 年 05 月 28 日、華南師範大学(中国、広州市)

山崎孝史「戦後沖繩の境界・領域と政治行動」中山大学地理科学・計画学院政治地理学系列第一講、2015 年 05 月 27 日、中山大学(中国・広州市)

金城美幸「イスラエル建国以前の労働シオニズムにおける民族共生論再考」日本中東学会第 31 回年次大会、2015 年 05 月 17 日、同志社大学(京都府・京都市)

[図書](計 5 件)

佐藤正志、前田洋介、美谷薫、梶田真、神谷浩夫、山崎孝史、富樫幸一、畠山輝雄、丸山真央、中條暁仁『ローカルガバナンスと地域』ミネルヴァ書房、2017、278(82-103)頁

豊見山和行、安里進、今村遼平、真栄平房昭、金城善、崎浜靖『平成 28 年度沖繩県立博物館・美術館博物館企画展「琉球・沖繩の地図展」

時空を超えて沖繩がみえる』(有)アイドマ印刷、2017、80(68-71)頁

松尾昌樹、岡野内正、吉川卓郎、溝淵正季、末近浩太、堀抜功二、岩崎えり奈、渡邊祥子、金城美幸、円城由美子、今井宏平、村上拓哉、坂梨祥、吉岡明子、江崎智絵『中東の新たな秩序』ミネルヴァ書房、2017、364(124-148)頁

町田宗博、儀間淳一、親川裕子、赤嶺ゆかり、鳥山やよい、新垣安子、崎浜靖、吉浜忍、人城道子、崎原恒新『豊見城市史第 4 巻 移民編(本編)』(有)サン印刷、2016、624(345-383)頁

竹中克行、遠城明雄、高橋誠、齊藤由香、林琢也、近藤章夫、土屋純、山崎孝史、神田孝治、大城直樹、山村亜希、上杉和央、谷謙二、梶田真、伊藤達也『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房、2015、206(123-142)頁

[その他]

ホームページ等

政治地理のページ(新)

<http://polgeog.jp>

人文地理学会政治地理研究部会

<http://polgeog.jp/studygroup/>

金城美幸(立命館大学生存学研究センター掲載ページ)

<http://www.arsvi.com/w/km19.htm>

政治地理のページ(旧)

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 孝史(YAMAZAKI, Takashi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 10230400

(2) 研究分担者

崎浜 靖(SAKIHAMA, Yasushi)

沖繩国際大学・経済学部・教授

研究者番号: 80331180

金城 美幸(KINJO, Miyuki)

東京大学・東洋文化研究所・研究員

研究者番号: 80632215

飛奈 裕美(TOBINA, Hiromi)

京都大学・人間の安全保障開発連携教育ユニット・特定講師

研究者番号: 90727570

(4) 研究協力者

伊敷 勝美 (ISHIKI, Katsumi)
沖縄市役所・総務部・職員

今野 泰三 (IMANO, Taizo)
大阪市立大学・大学院文学研究科都市文化研
究センター・特別研究員